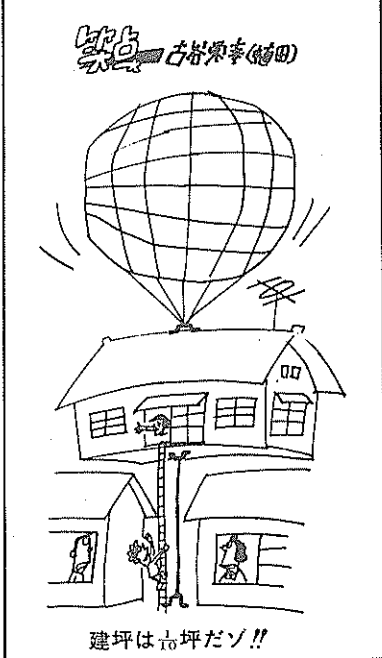


ご家庭で話し合ってお答えください。答えは今月号の広報に出ています。

- もんだい**
52年度の市政の方向を決める市議会定例会は○月○日開会。小笠原市長から52年度の施政方針演説がありました。
- しめきり**・4月15日(金)
■おくり先・〒783 南国市大南南国市役所内 広報委員会 親子クイズ係
- 答えのハガキには必ずお歳・職業を書いてください。
- しょうひん・特賞1,000円 = 3人 残念賞(記念品) = 10人

- 第36回正解者発表
- こたえ**
①②の夢を追う発願でした。
- 特賞・1,000円 = 3人
岡田始子さん (物部)
窪添正隆さん (岡豊町滝本)
岩崎京子さん (伏崎)
- 残念賞・記念品 = 10人
柳瀬清喜 (久礼田) 谷敬子 (岡豊町笠ノ川) 森田泰夫 (後免中町)
松岡道正 (稲生) 国沢龟子 (立田)
西原美代子 (北岩) 中司ルミ (白木谷) 竹内智子 (岡豊町中島) 森本恭弘 (植田) 松村陽雄 (岡豊町八幡)
- おめでとうございました。これからもどしどしご応募ください。

浜田弥芳



築地 古谷榮幸(稲生)

建坪は坪だぞ!!

市道の整備・補修を

最近、市道はほとんどがアスファルト舗装などにより路面整備され、また幾分拡張もされてきました。しかしながら、せつかくこの舗装道路も水道工事により路面ははがれ、長期間補修もされず、また、通行車両の大型化、重量化により路面はくずれ、路面も低くなり側溝もつぶれ、前よりも一層悪い道路状態になっている箇所が随所に見られます。

特に側溝の破損箇所がひどく、十分な整備・補修を望みます。

田中準一(稲生)

南国俳壇

- 長話して春山の露のり
一輪の椿を挿して留手紙
祝喜事の近づく水の温みけり
夕暮はむかしの水の湿気像
黄塵にまみれ日輪沈むなり
水温む木場濡れ色の灯をかかげ
枯れ尽すなかの一つの寒蘭大
凍空へ夜鳥一声落し行く
高樓に梅見る水久に揃わぬ旧友
- さくら咲く峠を越えて雲とゆき
左遷教師は忘れられる
執拗に居座る寒気耐へいつつ
春を語るふ老ませし父母
- 三畠 小笠原総子
飛行動の騒音なれし目もむけぬ
おきなご達のどろんこあそび
- 田村 小川勢子
- 岩村 久恵 (稲の実会)
井上 さえ ()
北岡 郁子 ()
三宮 たか志 (灯俳句会)
井上 なつき ()
溝淵 由紀男 ()
永田 ますき (寒空句会)
川村 博子 ()
高村 三喜子 ()
- 墨絵の具つけたる吾子のスモック
もほごろ来つつ思い出しよう
能間 伊藤誠子
久々の寤夢に亡母の涙見ぬ
枯れしきびに宿る朝露
下野田 徳久まさみ
馬蹄若を植えたし煙草は休めじと
凍てつく早朝を蹴るわれは
亀岩 島本 栄

南国俳壇

- 一人の力は弱いが多数協力すれば
ばかり知れない大きな力となる
ことは古人の言葉待つまでもない。
全農家もともより、県市町村の
指導的立場にある者も、政府も、
政治家ももって一丸となり、この
厚い壁を打ち破ることはできない
ものでしょうか。
- このままいくと、今から二十年
すると十ヶ当りの収量は、
全国平均より三割も少なくなる。
南国市米作農家の現状も本県の平
均と大した違いがないことを考え
るとき、暗然とならざるを得ない。
せめて全国平均なみの線まで何と
かならないものか……。しかし、
その差、すなわち報酬において半
分以下、収量において二割も少な
いという壁はかなり厚いが、十年
かかっても、二十年かかっても何
とか希望のもてる米作をしたい。
これが農家の悲願である。



高島田邦政(物部・農業)

米作農家はどくへ行く

最近農林省の発表した資料より
本県米作の現状をみると、誠に
憂慮に堪えないものがある。
それは本県米作改善に日夜、汗
水ながして働いている農家の十ヶ
当りの労働報酬が、僅かに三万一
千円で、全国米販売農家の平均報
酬六万七千円の半分にも足りない。
一日あたりについても、全国
平均の七千円に対し、高知県は三
千円にしかない。利潤につい
ても全国平均三万三千円の赤字に
対し、高知県平均は二万円の赤字

という有様である。
五十一年度の米価決定の際、政
府は米販売農家の労働報酬を一日
当り男女込み六千七百円、男子
八千円にしよう計算したと、
五十二年七月十日発表している。
本県の場合は政府案の半分にも足
りない。

一年間の伸率(十五ヶ年平均)が
全国四・六割に対し、高知県
は僅かに一・五割しかない。伸
率三分の一

第十回老人単科大学

「自分たちの手で幸福 生きがいをつかんでいこう。」

第十回南国市老人単科大学が、三月八日、社会福祉センターに約百二十人が参加して開かれまし
た。この大学は、お年寄りの学習の場、親睦の場として毎年一回開かれていた。

吉本助役の「市政の現状について」、農協病院の露口先生の「慢性硬膜下血腫について」の講演に
参加したお年寄りは熱心に聞き入
っていました。

力作の幼児画展

「子供の心の表現を、のびのびと絵面に表わそう。」

三月十一、十二日の両日後免中町公民館で、保母会主催の幼児画展が開かれました。展示された二歳から五歳までの力作の幼児画は約百十点で、「幼児画の見方」などが会場を訪れた市民や父兄、教員らの話題にのぼり、好評の幼児画展でした。

会場を訪れたある市民は、「子供の絵を見ると心が洗われる。」と、感想を述べていました。



お返し廃止

入院したとたん、お返しのご
とが頭痛のたねになるとぼやく。
ばやきながらも、貰っているから
返さないわけにいかない。

引き出物の話が出る。置場に困ること、不用品交換会や災害見舞いに際す、中には送料がにじんだりする粗悪品の話も出る。折角記念にとあげた引き出物も、こんなに持て余されているというなら、考えてみる必要があるしはないだろうか。

ある日の新聞に、豪華になる一方の結婚式という記事が出ていた。ホテルなどの式場での総経費は数百万円、招かれる方も祝儀袋の中身が重く家計にのしかかる。しかもこの様な結婚式もスポンサーは両親であって、過保護の総仕上げである。金をかけたからと言って人生必ずしも幸せとも限らない。結婚式にケチをつける気は毛頭

広報委員の目

ないが、人生の門出を祝う方法もどこか狂ったところがありはしないかと思う。「この頃の付き合いも大変です。五千円から万となる」と、給料は上がらないのに交際費はかさむ一方で、義理を欠くこともあります。」と乗り合わせたタクシーの運転手さんも話しておられた。

貧乏人は表を食えと言った政治家があつたが豪華な祝宴も「できるからやる」というのでは社会生活のルールにも反するのではなからうか。お返し廃止をしたところで何程のことがあろうかと思うかも知れないが、物価高、不景気の中で、私どもの生活は、少しでもムダを省いて生活防衛を計らねばならないところに追いつめられている。この運動は市民ぐるみで実施しなければ効果が少ないとの声が多くなつたので、市政会議でも議題としたが、市民の盛り上がりはまだまだ足りない。市として取り上げてもらえなかつた。

市農協の役員はすでに実施されている。また近くおめでたを迎えられる広報委員の藤本様、野本様のご両家、本川様と市議員の武田様のご両家も引出物廃止を決定されている。誇りをもってお返し廃止、結婚式の簡素化の輪を広げていただきたいと願する。